

未来展望の背景

・社会経済情勢の変化や科学技術の進展（人口減少・少子高齢化社会、AI・IoT・5Gなどによる自動化の急激な進展、財政縮小社会）を前提として戦略・政策・計画の根本的な見直しが必要です。

・こうした前提が激変する中であっても、数十年前の計画や慣習が生きている前例主義であるのが政治と行政の現状です。

・昨今、話題となっている「金融庁二千万円報告書」から学ぶべきことは、未来を他人任せにしている人達はパニックになるといことです。未来（数字）を見据えた現実からの対策が必要です。

未来展望に際して気になる現状

1・人口構造の激変・寝たきり・認知症・女性の高齢化

・二〇二五年、団塊世代が全員75歳以上になります。これに伴い、医療費の激増が想定されるとともに、医療機関が高齢患者に忙殺される未曾有の体験が起きます。

・また、高齢化に伴い、認知症行方不明者が年間一万七千人に及ぶと指摘されており、二〇二五年には認知症患者が700万人に突入する時代となります。

・とりわけ、女性の高齢化が進展し、二〇二〇年には女性の過半数が50歳以上となります。

村上 栄二が見据える 3つの未来

来月から『村上栄二が見据える3つの未来』を連載していきますが、その前に今月は未来展望の背景についてお伝えします。

2・二百年に一度の記録的大雨が降った現実
・昨年の西日本豪雨では405箇所の雨量観測所のうち101箇所で二百年に一度とされる大雨が記録されました。
・これによる被害総額は約8千億円に達し、義援金約100億円・寄付金18億円。また、ボランティアは約13万人に至りました。
・こうした中、福山市内で人的被害が発生した溜め池に対し、広島県は県内約13千箇所の溜め池をたった一か月半で点検し、今後の対策方針を公表しました。

3・整備予定のバイパス等計画道路は、計画策定時と状況が激変

・今から約35年前の1983年、鞆地区を東西に結ぶ県道47号バイパスの建設計画が決定されています。当時、ファミコンが発売され、東京ディズニーランドが開園しました。

・真に必要な道路は都市計画で計画決定されていますが、福山市が計画決定している道路約280kmのうち、2003年からの一〇年間で整備されたのは、わずか8kmです。
・一方、昨今の科学技術の進展により、車の自動運転化の取り組みが進められています。こうした車の技術開発は道路整備よりも有効な渋滞緩和対策に至る可能性があります。

未来展望への意気込み

・行政マンは決められた仕事に取り組むことが求められており、未来展望への意志を持つことは政治家のみが成せる仕事です。

・これまでの政治家の仕事は「補助金を持つてくる」「公共事業で地元の環境改善を図る」ことが主でしたが、これからの政治家は「未来を読み切り、新しい政策提案を行う」ことが最も重要な仕事だと思っています。

『村上栄二が見据える3つの未来』

- 1 : AI・IoT・5G を見据えた役所機能の新しい在り方 (8月)
- 2 : 広島県が行う災害対応を知っていますか? (9月)
- 3 : 道路計画で見るパラダイムシフトの必要性 (10月)

Consort homes

賃貸マンション、月極駐車場
「空き」あります!



お問合せ

☎ 084-927-1185
有限会社 DC 開発研究所

〒720-0052 広島県福山市東町2-3-2

村上 栄二プロフィール



りじょう幼稚園、福山市立新開小学校、福山市立誠之中学校、私立近畿大学附属高等学校福山校、近畿大学法学部経営法学科を卒業。大学卒業後、有限会社DC開発研究所にて代表取締役のほか、大阪市会議員(1期)を務める。2015年6月からは「地元へ恩返しをしたい」想いで福山に戻る。広島県会議員。